

## 「博物館実習」の実践的支援体制の研究

### 背景・目的

本学学芸員課程は、開設科目の担当を外部非常勤講師に依頼し、課程開設学科から選出された学芸員課程運営連絡会委員が、それぞれの専門的分野から援助的指導を行い、教育内容の充実を図ってきた。法律改定により、学芸員課程のカリキュラム変更がなされたこととから、これまでの方法の再検討を行い、教育内容の充実を目指すことを目的に取り組むこととした。

### 実施内容

運営連絡会の各学科選出委員は、これまで3年次開設科目の「博物館実習」に対し、①見学実習旅行の引率、②特別実習企画・実施③シンポジウム・講演会開催指導を実施してきた。今年度も、これらを実施し、新カリキュラムへの対応について検討を行った。

①については、歴史・文化系（大久保）、美術系（井上）、文学系（伊狩）、音楽系（住川）の4コースから、受講生にいずれかを選択させ、実施した。②については、専門技術者を招き、委員が付き添い、補助しながら、4回実施した。

③は、今年度は、大平・井上・杉井が指導を担当した。毎年、前年度に実習館を決定する



時期より、実習予定舎にテーマの決定、講師選定作業から始めている。今年度は、11年度の実習生のテーマを受け継ぎ、東日本大震災後にミュージアムが、被災地域においていかなる社会的役割を果たせるかという問題意識のもと、シ

ンポジウムを企画、実施した。11年度末（1・3月）に石巻の仮設住宅に暮らす方々を仙台市博物館、宮城県美術館に招待して一緒に見学するという企画を実施し、あわせて県内外のミュージアムへの取材を行い、3館から講師を招いて7月にシンポジウムを実施、さらにそこでの成果を確認するため、9月に東北歴史博物館において、3回目となる見学ツアーを実施した。

### 結果及び考察



基本的に①～③すべてを新カリキュラムのもとでも実施するという方向性を確認した。ただし、①については、その実施時期を変更し、実習館選定のためのレポート作成に備えるための実習として位置づける必要性を確認した。

③は本学独特のプログラムで、教育普及事業を館務実習前に体験させることにより、館での実習においても積極的にリーダーシップを発揮して、他大学学生とも協調的に作業を行えるようになるという点で大きな効果が出ている。また、講師への依頼・当日の運営を含め、社会性を養う上にも大きな効果があり、新カリキュラムにおいても継続する意義があると判断される。しかし、新カリキュラムでは単位数が増加しており、準備のための半年間という時間的負担が受講者に与える負担をいかに軽減させるかという課題があることも確認されたので、来年度の指導の中で改善方法を検討することとした。